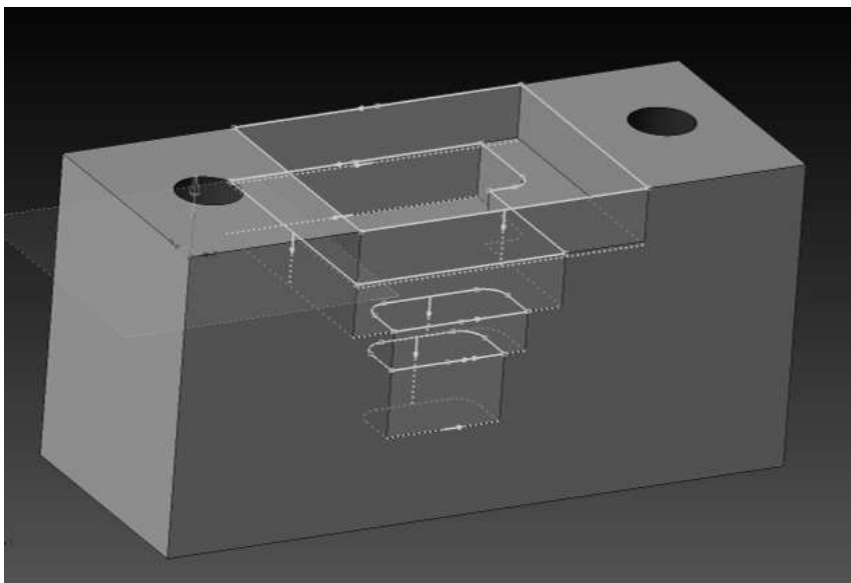


## 事例で解説（2次元機能の場合）

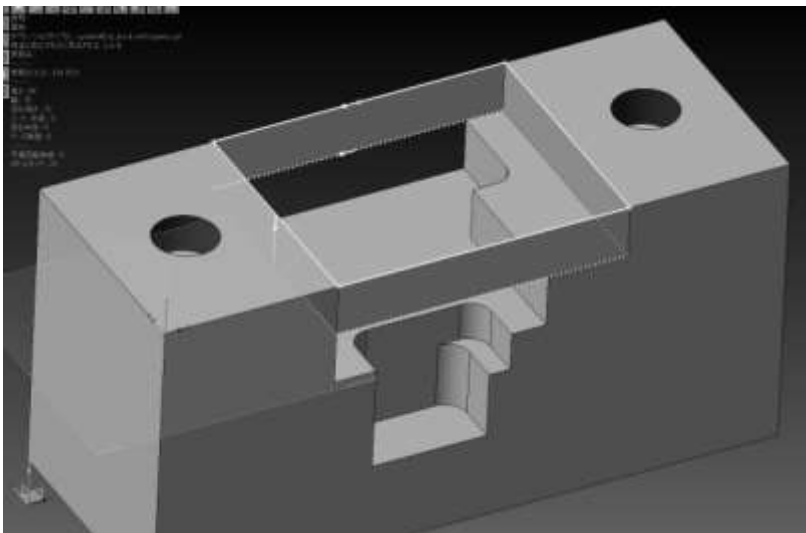
それではまず、VISI の持つ「フィーチャー認識」という機能で、2次元の機能で加工する領域を抽出してみます。



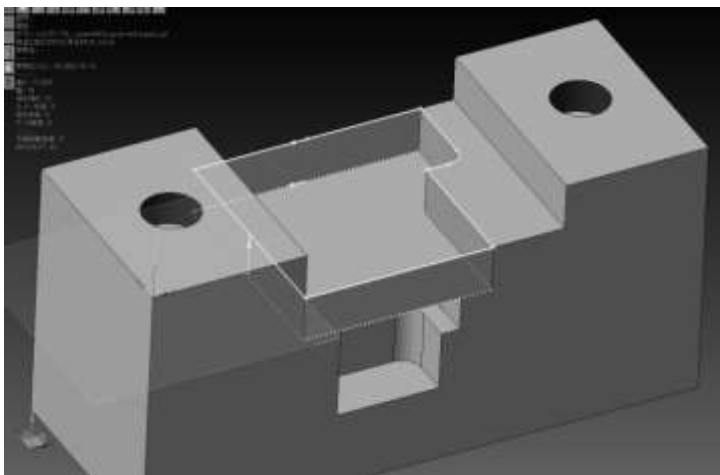
このように、最近の3次元ベースのCAMには、自動で加工するエリアを深さと共に抽出してくれる機能が備わっており、非常に便利です。従来のCAMのように、自分で輪郭を描いたり、せっせとエッジを拾う作業が必要ありません。

また、深さ方向についても、深さ数値を手入力することが従来から言われる2次元の加工にあたりますが、最近の3次元ベースのCAMを使えば、手入力は無く、ヒューマンエラーによるイメージミスはほとんど起こりません。

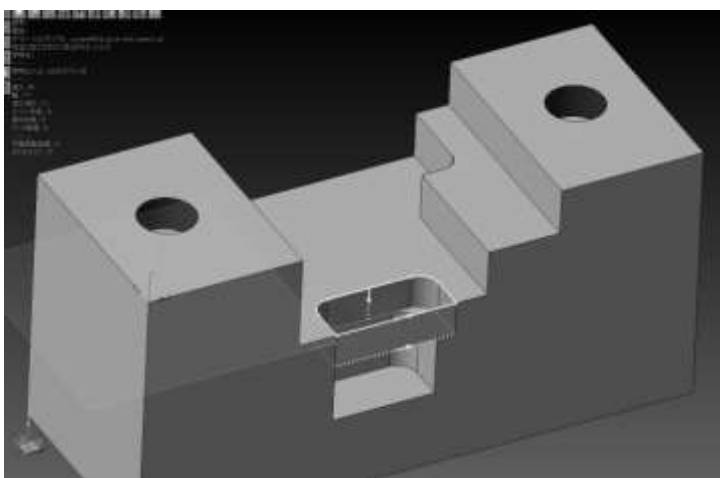
今回は下図のように4階層の2D加工領域として抽出されました。



1層目



2層目



3層目